

床擦れの基礎知識

介護の現場では床擦れを作る事は、「ケアの質が悪い」と恥すべき事と理解されています。

床擦れは放置するとどんどん拡大してしまいます。

その拡大はケアをますます困難にします。

在宅ではご家族とケアスタッフがきちんと連携し、対応することで作らないケアは可能です。

「褥瘡のできはじめは、皮膚が赤くなり、うすく水疱（水ぶくれ）ができます。この水疱が破けてびらんになり、乾いて治ってしまうこともあります。皮膚が壊死すると、黄色から黒っぽくなり、周りが炎症を起こして赤く腫れてきます。さらに感染を起こして膿がたまることもあり、そうすると高熱が出たりします。」



((<https://www.nurse-at.jp/knowledge/disease/jokuso.html> 参照)

床擦れを防ぐには

栄養状態を改善し
摩擦と擦れを無くし
圧迫を防ぐことが必要です。

圧迫を防ぐことはエアマットなどの除圧用具で可能です。が、せっかく高機能のエアマットを導入しても、エアマットと身体の上にタオルを挟んだり、滑らない素材、バスタオルなどで身体をのせて引っ張れば摩擦や擦れが生じます。

円座もダメなのです。

円座の穴が皮膚を引っ張ります。これも擦れを生みます。



圧迫を防ぐことはエアマットなどの除圧用具で可能です。が、せっかく高機能のエアマットを導入しても、エアマットと身体の上にタオルを挟んだり、滑らない素材、バスタオルなどで身体をのせて引っ張れば摩擦や擦れが生じます。

円座もダメなのです。

円座の穴が皮膚を引っ張ります。これも擦れを生みます。

よかれと思うケアが結果的に悪い結果を生んでいるのです。

わたしたちの事業所が過去に支援していた方、ご家族がどんどんお金を注ぎ込んで 24 時間家政士にケアにあたらせていました。しかし床擦れはよくなるどころか悪くなりました。

その理由は体位変換を意味なく急角度にしたことで摩擦と擦れが起きていたのです。

お金を使って悪くするという残念な結果です。

そこでわたしたちは家政士にはケアへの関与をご遠慮を頂き、ホームヘルパーだけのケアに切り替えました。

根拠のあるケアでその方の床擦れはどんどんと良くなりました。そして完治。

特別なことをやったものではありません。

先に記入した三つのことを確実にやっただけなのです。一度と作った床擦れは治すのは大変時間がかかります。作らないケアを大切にしたいですね。

床擦れのケアを学びたい方に床擦れ予防用具のメーカーが作った小冊子がありますのでお読みになりたい方は事務所スタッフにお声がけ下さい。差し上げます。



有限会社 おとくに福祉研究所

きょうと福祉倶楽部 ☎075-958-2560

長岡京市天神4丁目 7-12 ハイッ東台101

きょうと福祉倶楽部では皆様からの原稿を募集しています。お気軽にお問い合わせください